

「四つのテスト」と「職業奉仕」

寄稿 米田實豊会員

フォアウェイ 四つ辻です。そこで四辻に辿り着いた時に右へ行くのが正しいか、左にすべきかと一旦停止して進路を考えることであると解釈することが出来ます。

日本の諸企業のトップに立つ職業人であるロータリアンが、心に銘じて「四つのテスト」に関心を持ってほしいと思います。

ロータリー活動の中での職業奉仕というのは、理念があつて現実があるわけです。そして、このギャップが激しいのです。

理念だけで飯は食べられないよ、というわけです。ロータリーの理念だけで世界を救うことが出来るのかなど思っていたり、政治情勢をみたり、いろんな事を見ているとあまりにも理念がないというか、何もないわけで現実が成功してしまっている。もちろんIT革命によって我々の道具であり手段が一つ増え、持っているものと持っていないものとの格差が激しくなつてゆくだけであり、物を作り、物を売っていく流れの中でいろんな流通問題が21世紀になっておきってくるのですが、IT革命情報とか、いろいろありますがそれを選定するのが最終的には大衆です。

例えば、ユニクロさんが日本にない構造を持ってきて売れるわけです。21世紀は、競走の時代です。残るには、どうしたら良いか。企業防衛をして行くには。結局は、ロータリー的にはどのように考えたらと思いますが、先ほど申しましたように職業奉仕の理念を抱きつつ如何に企業が収益を求めているか。今までは、時代背景の中で良き時代がありましたから、それで通ってきたのですが、今は、通らなくなってきた。その溝があまりにも大きくなってきた。その溝の前で我々は、ロータリーの理念を如何に抱いていくか、と云うことです。

職業奉仕が自分の天職の奉仕であると思います。天職の奉仕をさせてもらえることに感謝。そこで「四つのテスト」で確かめながらやっていくことになるのです。天職とサービスの葛藤を超えてやっていくのが職業奉仕と思っています。